

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4771800077		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	グループホーム くばの里		
所在地	沖縄県金武町字金武4196-26		
自己評価作成日	平成27年8月27日	評価結果市町村受理日	平成27年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=4771800077-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*住宅街の中に位置する当ホームは住み慣れた地域で、ご家族、友人の訪問、近隣との交流ができる環境にあります。又、出張美容師の利用、行事やレク活動にボランティアの方々が参加していただき交流を図っています。*入居者の一人ひとりが、ゆったりと生活ができるよう日々笑顔のある支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念に「個人の意思を尊重し自分らしさが発揮でき、いつまでも笑顔のある当たり前の暮らしを支援します。」掲げているように、利用者個々の思いや意向を把握し、状態を観察する事で、個別計画書を作成し利用者の個別支援にチームで取り組んでいる。また、看取りケアに関しては多職種との情報共有を図り、協力体制で穏やかで安らかな状態を保つように努めることで、職員も落ち着いてきちんと対応が出来、個々に対しての対応(看取り計画書)を作成することで、家族も職員も不安が減り安心して看取りケアが行われている。地域との繋がりを大切に、地域ケア会議(3カ月に1回)には金武町の事業所、管理者・福祉課・包括支援センターなど担当者が参加して、各事業所からの困りごとや災害対策について情報交換や行事等の呼びかけを行うなど取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成 27年10月28日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	27年度より独自の理念を揚げ、のショートミーティング後に唱和し、常に理念を意識しながら実践に努めている。	今まで独自の理念がなく、事業所独自の理念が必要と考え、職員に提案し好きな言葉を出し合い皆で作り上げている。法人の理念とともに事務所に提示し、職員は利用者が「笑顔」で暮らせるよう日頃のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、招いたりするほか、美容師、ヤクルトの受け入れをしています。保育園児が来訪し様々なボランティアを受け入れて地域との交流に努めています。	地域の婦人会が訪れ、利用者と共におりがみを折ったり、行事では踊りを披露してもらうこともある。近隣の保育園児が散歩途中で立ち寄り交流している。地域の福祉祭りの参加やこいのぼりの行事に参加している。地域の方の災害時の受け入れなど行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加している中で介護や認知症に関する相談に応じ、貢献できるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム現状、ヒヤリ、事故報告等をしています。外部の意見を参考にしながら資質向上に努めています。	運営推進会議は2カ月に1回定期的に行われ、利用者、家族、包括支援センター職員、老人会長、地域の代表者が参加している。会議では事故等を含めた運営状況の報告やターミナルケアの取り組み等意見交換が行われ、議事録・ホーム便りも毎回配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、相談にのってもらったり、情報交換をしています。敬老会、行事等には担当者にも声掛けしています。	地域ケア会議は3カ月に1回行われ、管理者が参加している。各事業所からの困りごとなどの情報交換・行事等の呼びかけを行っている。また、事業所の利用者で不穏になっている時は、馴染みの包括支援センター・社会福祉協議会の職員に連絡し訪問してもらうなど連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については十分理解しています。何が拘束なのか管理者や職員と話し合い拘束のないケアに取り組んでいます。	身体拘束に関しては、県のグループホーム連絡会の研修参加、事業所内では日頃から具体的な事例をあげて話し合い、利用者は日中玄関から自由に出入りができ、身体拘束をしないケアを実践している。家族へは予測されるリスクについて説明している。	

沖縄県（グループホーム くぼの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で虐待防止について学んだり、ミーティングで話し合ったり、時には食事をしながら、不適切な言動、態度の確認を職員同志で話し合う場面がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はありませんが、権利擁護に関する資料は目のとどく所に綴ってあります。現在2名の入居者が利用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って十分理解できるよう説明をしています。不安、疑問点があった場合には、時間をかけ説明を行っています。重度化に伴うことについても説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に用紙、苦情ボックスを設置していますが、利用された方はいません。口頭にて意見、要望を聞くことがあり、内容に応じてはミーティングにて話し合いを行っています。	利用者からは日常の会話の中で意見や要望を聞き、思い、一声を大事にして反映できるようにしている。家族からは面会時や運営推進会議などで意見を聞いている。「事業所での看取りは継続して欲しい」などの意見があり、ケアに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて職員の意見や提案を聞き、管理者会議にて管理者が伝え、反映につなげています。	職員の意見は、定例ミーティングや日頃の会話等から聞き、職員からの要望に対応して、勤務形態や職員を増やしてほしい等、毎週火曜日に開催される管理者会議で代表者の了解を得て意見が反映され、勤務形態を変え運営規定を改定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得した際には時給の見直しをしています。希望休みには勤務形態を考慮したり、職員同志が勤務変更を行ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるようにしています。介護に対する意識を高めるよう努めています。		

沖縄県（グループホーム くばの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会、金武町地域ケア会議に参加し、他事業所との情報交換を行い、質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に生活歴、生活状況を知り本人の思いを聞き、安心して生活ができるよう支援しながら信頼関係を築く取り組みに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分話し合い家族の意見や思いをゆっくりと聞き、信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの身体状況、生活状況を見極め必要なサービスができるように努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状況に合わせその日にできる事を一緒にに行い、人生の先輩として寄り添う者としての関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族が入居者への面会のみに終わりではなく、職員はホームでの生活状況を伝えることで共に支援していくという関係に努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方がいつでも気軽に來れる雰囲気作りをしています。時には自宅訪問、友人宅訪問、馴染みの場所のドライブと関係が途切れない関係作りに努めています。	利用者が以前住んでいた場所や馴染みの場所に出掛けている。友人や知人が訪問し、一緒に過ごしている利用者もいる。法人のデイサービスに職員が同行して利用者の顔馴染みに会いに出掛ける支援を行い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

沖縄県（グループホーム くぼの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重し、テーブルの配置、部屋の移動等にも工夫しています。一人ひとりが孤立しないよう、職員が加わりコミュニケーションを図る支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入院先に見舞いに行き、経過を聞いたり、相談を受けたりアドバイスを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の会話、家族との会話から思いを把握し一人ひとりの思いを把握して支援に努めている。職員が困難の場合には家族の協力も得ている。	利用者の思いや意向は、日々の会話の中で把握し、思いに答えられるものは対応している。実際に「船に乗りたい」等の思いがあった時は、伊江島まで船に乗って出掛けた事例もある。把握が困難な場合は、家族からの情報や本人の表情・行動等から職員が推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境を把握し、本人との会話の中から以前の暮らしを尋ねたり、家族、関係者より情報収集を行い、共感するようにし、馴染める関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の流れ、過ごし方を把握しています。心身状態は日によって違い、その日の表情、口調等から把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時又は、状態変化がある場合には、本人、家族の希望も取り入れミーティング等で話し合い、介護計画作成に努めています。	担当者会議は状態変化時や更新時に行い、利用者・家族・担当職員・管理者が参加し、ニーズに沿ったケアプランを作成している。モニタリングは変化がない時は3カ月毎に実施している。日々のサービスで気になる事や変化時には、日頃の職員とのコミュニケーションの場で話し合い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録しています。変化があった場合には朝、夕の申し送りをして職員が情報共有しています。月1回のミーティングにても話し合い、より良い介護計画に努めています。		

沖縄県（グループホーム くぼの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝、朝の申し送り時にその日に必要な支援を検討しています。銀行、役場、病院同行等のニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児、教会からの演奏会やさまざまなサークルとの交流、同敷地内にあるデイサービスへの参加をしての交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望する係りつけ医を確認しています。必要に応じて看護師や管理者が受診支援し、心身状態を口頭、又は書類で情報提供しています。	利用者は、希望するかかりつけ医を受診し、5名は往診を受けている。往診後の情報について、家族へ電話にて報告している。定期受診は職員対応で3名、1人は家族対応としている。主治医への情報は口頭で行い、必要があれば書面を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態を報告し相談、助言を頂いています。必要に応じて主治医に報告しアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、病院側との情報交換に努めています。早期退院が出来るように、ホームに戻った場合はどのような支援が必要なのか、家族、本人、病院側と話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに関する指針を作成しています。契約時には大まかに説明し同意書を作成しています。方針が決定したら、それに向けて家族と話し合い、主治医と密に情報交換を行い個々に合った看取りケアを実践できるよう実践に努めています。	「終末期ケアに関する指針」があり、時期を見て家族に説明し、同意を得て看取りを3件支援している。個々に対しての対応を行えるように看取り計画書を作成し、家族に説明、同意を得ている。状態変化に応じて医師や看護師も含めたチームで話し合い、職員は研修等による共通認識をもって支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し見やすい場所に掲示しています。		

沖縄県（グループホーム くばの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜を想定した避難訓練をしています。沖縄県広域地震、津波避難訓練も行っています。隣人にも声掛けをして協力依頼をしています。	年2回(昼・夜間想定)の避難訓練を行っている。そのうち1回は消防立ち会いで実施されている。地域住民へ通知しているが参加はない。その他1回沖縄県広域地震・津波に対しての避難訓練を実施している。備蓄等は1日程度の食糧や水、日用品等が準備されている。	昼・夜間を想定した避難訓練を実施しているが、屋間を想定した記録が残されていない。今後は記録をしっかり残せる取り組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組み、入浴の際にも要望に添ってプライバシーを損ねないように対応しています。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、出来ること(編み物、縫物、洗濯たたみ、部屋の掃除など)を、発揮できるよう支援している。また、食堂近くの畳間にあるソファで寝ている利用者が使用しているポータブルトイレがそのまま置かれている。	昼夜問わず他から見えない配慮、使用していない時のポータブルの置き場所の工夫など、プライバシーの確保について工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で一人ひとりのやりたい事を確認しながら支援するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、本人のペースに合った支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分なりにおしゃれを楽しんでいます。自分で決められない方は本人に確認しながら、身だしなみを配慮しています。美容師には2月に1回来ていただき希望される方は散髪していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(もやしのひげとり等)や食事前の準備(コップ、お箸並べ)を手伝ってもらっています。	8月より職員の人員不足で副食は3食とも配食利用し、主食(ご飯)・みそ汁は事業所で職員が調理している。おやつも職員が手作りしている。職員は利用者と同じ食事を、利用者が終わった後ミーティングも兼ねて摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし記録しています。個々に合わせた食事形態、水分補給を行っています。不足している方には声掛けにより不足を補えるよう支援をしています。		

沖縄県（グループホーム くばの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの促し、支援を行っています。義歯の方は就寝時には水、又は清浄剤対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、声掛け、又はトイレ誘導を行っています。日中は布パンツ、夜間は紙パンツにしたりして自立に向けた支援に努めています。	利用者の排泄パターンは排泄管理表で把握し定期的にトイレへの声掛けを行っている。排泄の失敗があってもトイレ内に取り付けられているシャワーなどで洗っている。また、プルーンや牛乳の摂取でスムーズに排泄出来るように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便をチェックしています。排便が2日続けばあいには、牛乳、ヨーグルト等を摂って頂いています。3日続く場合には看護師と相談しながら、下剤を服用して頂く場合があります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めています但那々必要に応じ対応しています。希望や要望を聞き入れるようにしています。	基本週2～3回入居者の希望で好きな日時に入り、個浴のシャワー浴が出来る。着替えを本人が選んだり、選択できるよう確認している。入浴時などは当番制で職員が対応しているが、同性介助を基本として、異性介助になる場合には時間等を変更し、希望の同性介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはホールの消灯時間は21時ではありますが、本人のリズム、その日の体調に合わせて休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法の説明書は確認できるよう個別の介護記録に綴っており、又事務所の処方箋ファイルにも綴っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のお膳拭き、洗濯畳み等、一人ひとりに合った役割を持って頂けるよう支援しています。畑で季節ごとの野菜を作っており収穫も楽しみにしています。		

沖縄県（グループホーム くばの里）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添えるのは困難ではあるが、全体での外出は年、何回は遠方に出かけています。毎年恩納村のハーリーは年間行事に組んでいます。日常的にはホーム周辺の散歩をしています。	天候や体調を確認して、近隣を散歩したり、ミニドライブでこいのぼりを見に行ったり、外食(魚天ぶら、いか汁など)の支援を行っている。大きなドライブでは北中城村のひまわり畑、コスモス畑、金武ダム等に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のする楽しみをもって頂き自分でお金の支払い等が出来る事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をかけたり、手紙を書いてもらい郵送支援をしています。年賀状は写真入りにして宛先、文章を書いてもらい、書けない方は代筆支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋全体が明るく、照明、空調の調節しテレビの音量調節に配慮して落ち着ける環境作りに努めています。	台所や食堂近くにある畳間やソファで、誰かが近くにいるという安心感から利用者はゆったりと過ごしている。玄関入り口には利用者好みで花等が飾られ、玄関先にテーブルと椅子が設置されてくつろげるような居場所として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチを置き入居者同士が雑談したり、居間のソファにてテレビを観たりと個人の思い思いに過ごすことのできるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や道具の持ち込み可能と説明しています。仏壇やタンス、テレビを持ってこられ、自宅と違和感なく居心地の良い居室作りを常に心がけています。	居室はベッドとクローゼットが設置され、洗面台も設置されている。利用者はテレビ・寝具等を持ち込んだり、家族写真を飾った居室や冷蔵庫を設置している居室もある。居室のシーツ交換や掃除は出来る方はご自分で職員と一緒にしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、ホール、トイレ等には手すりを設置しています。自室、トイレにはわかりやすいように掲示しています。		